

# 授業計画

平成 29 年度



福島学院大学  
短期大学部 保育科第二部

# 授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、授業方法、到達度の評価などが記載されています。

また、それぞれの授業時間以外の必要な学修についても明記されていますので、予習・復習を励行してください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を履修するための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

## 1. 保育科第二部の教育目標

保育科第二部においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としています。

## 2. 保育科第二部の学習成果

保育科第二部では前述の通り「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材育成」を目指しており、皆さんには、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格両方の取得を奨励しています。

免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていませんが、学習成果はこれに沿って以下のように設定しています。

- (1) 幼稚園、保育所、認定こども園にかかわらず、地域社会や家庭など様々な保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につけている
- (2) 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得している

## 3. 保育科第二部の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

次の要件を全て満たす保育科第二部の学生について、学長は教授会の意見を聞いて卒業を認定し、「短期大学士」の学位を授与します。

- (1) 学則に定める年数以上在学した者
- (2) 所定の授業科目について、次の必要単位を修得した者  
教養教育科目 / 15 単位以上  
専門教育科目 / 50 単位以上
- (3) 成績評定平均点 (GPA) が 70 点以上の者
- (4) 保育科第二部の教育目的と人材育成の目的に適い、かつ短期大学士の学位を授与するに相応しい人格識見と健全な精神を有していると学科会議で判定された者
- (5) 所定の学費を納入した者

## 4 . 保育科第二部学生の努力目標

- (1) 保育科第二部では「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」が取得できます。平成27年度施行の「子ども・子育て支援制度」では、幼保連携型「認定こども園」で働く保育教諭に対して、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が求められています。従って、卒業時に両方を取得できるようにしましょう。
- (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち、明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを身につけるようにしましょう。
- (3) 教育・保育実習は保育者になるための大切な体験です。実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を身につけましょう。

## 5 . 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために、次の点が求められます。よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の学是「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりではなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でもゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されませんので、常に探求心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。卒業後は福祉学部福祉心理学科への進学も検討しましょう。

注：「保育者」

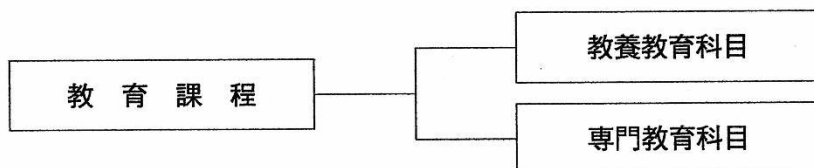
保育者（はいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

## 6. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### (1) 教育課程編成の基本的考え方

保育科第二部は、働きながら学ぶ学生が3年間で無理なく履修できるような科目の配置を行っています。保育科第二部で開設されている授業科目は、「教育課程表」(P12)の通りです。教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別されています。

教育課程（カリキュラム）



### (2) 教養教育科目の教育課程編成方針

教養教育科目は、「真心こそすべてのすべて」という創立者の信念を建学の精神として、さらに、教育理念に基づいた「真心」と「思いやり」を持った人間性を涵養するため、大学教育の基礎となる科目を設定しています。教養教育科目は、本学の教育方針を学ぶ「本学の教育」を含めた7つの分野（11科目）で編成されています。

#### 教育方針

「本学の教育」は本学の学生として、建学の精神、教育理念、および特色ある教育について理解し、実践することをともに考える科目です。そして建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、社会的貢献について考えることができる人材育成を目標としています。

#### 人間関係分野

現代社会において、大学生の一般的マナーの悪さがよく取り沙汰されています。大学在学中、学外実習や就職活動の際も実習先や求人先から、マナーの欠如が指摘されます。そこで「生活教養」の科目を設け、人間関係を円滑に図るためのマナー教育を必修科目として位置付けています。

#### 表現力向上分野

教養ある社会人として、最低限度身につけておかなければならない基礎知識は数多くありますが、本学では明快適切な自己表現によって、より良い人間関係をつくりあげてゆくことを教養教育の基本としています。特に正しい文字言語と音声言語の習得を基本とした、豊かな国語力を身につける手法として、より良く読み、より多く聴き、より多く書き、より多く話すことが最良とされていますが、これには多くの時間が必要です。しかし、漢字・成語などの読み書き、意味の理解の基本的なものに限定すれば、比較的短期に習得が可能と思われます。話す、書くについても、生活のさまざまな具体的場面に即した実践的方法を身につけることによって、表現力の向上を図ることができます。

本学では、文章並びに会話による表現力の習得を目的とした「国語表現」（4単位）を必修として国語力を集中的に身につけることに力を入れています。

## 教養分野

教養を兼ね備えた保育・教育者になるためには、一般的な幅広い教養を学ぶことも重要です。

その中でも「日本国憲法」は、基本原則について憲法の条文や判例から自分の社会観を確立できることを目標にしています。

## 情報教育分野

現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に必要な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける科目です。

保育科第二部では、入学時の学生の情報機器操作スキルレベルが異なる現状から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、下記によりレベル別授業を実施しています。

- 「情報機器操作Ⅰ」→初級
- 「情報機器操作Ⅱ」→中級

## 国際理解分野

「国際理解論」では、本学の「教育の理念」にも掲げている『国際的な視野に立ち、相手のことを理解し、相互理解の心を持つ人を育てます』を具現化する科目です。変化の激しい今日の国際社会の現状や歴史的な背景などを、DVDの映像や新聞、雑誌を利用して学びます。

「国際理解演習」では、本学で企画する海外研修旅行に参加し、各自の研究テーマに沿った事前学習や現地での体験、研修後のレポートを作成を通して、諸外国の社会や異文化への理解を深める内容としています。

また語学教育における「英会話」は、近年教育・保育施設の幼稚園や保育所などでも国際化が見られるようになってきており、諸外国を母国とする保護者とのかかわりも多くなっています。

そこで、日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身につけるため、英語の発音、リスニングに重点を置き基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基礎的なコミュニケーションができることを目的にしています。

## 体育分野

保育・教育者は、活動的な子どもたちと共に行動をする仕事です。常日頃から、体力の維持と健康管理は極めて重要です。

「体育講義」では、日常生活における心身の健康の確立について、特に運動やスポーツの持つ現代的な意味や役割、可能性を探り、学生が生涯にわたり健康なライフサイクルを送れるような内容としています。

「体育実技」では、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけることを目的として実施しています。

### (3) 専門教育科目の教育課程編成方針

専門教育科目は、我が国の「子ども・子育て支援制度」を受け、「子育て等に関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成」。また、本学科の教育目標である「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材の育成」を図るための科目を設定しています。

そして、教育・保育に関する専門職として、現場で実践するために必要な基礎知識や技能を修得し、さらに、子どもの育ちに深い洞察力を持ち、一人ひとりの特性に対応した総合的な教育・保育の実践ができるような科目構成を行っています。

幼稚園教諭免許状に関する区分は、教職に関する科目（6科目群）と教科に関する科目に分けています。

保育士資格に関する区分は、6科目群に分けて編成しています。

※詳細は次の通りです。

#### 幼稚園教諭免許状取得にかかわる科目区分

##### 教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教育の基礎理論に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目

教職実践演習                      教育実習

##### 教科に関する科目

幼児音楽、ピアノ演習、図画工作、幼児体育、生活、国語、算数

#### 保育士資格取得にかかわる科目区分

保育の本質・目的に関する科目

保育の対象の理解に関する科目

保育の内容・方法に関する科目

総合演習

保育実習

保育の表現技術

### 1) 教員免許状取得にかかわる教育課程について

#### 教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教職の意義等に関する科目とし「保育者論」を設定しています。この科目は、教職・保育職の意義や役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、保育者を目指す者が、教職・保育職についての理解を深めるための科目です。そして、将来、教職・保育職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図っていきます。

教育の基礎理論に関する科目

教育の基礎理論に関する科目として「教育原理」「発達心理学」などを必修科目としています。

「教育原理」では、教育の理念、並びに教育に関する歴史及び思想を学び教育に関する体系的、基礎的理論について理解します。

「発達心理学」では、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深め、教育・保育における発達援助について学びます。

教育課程及び指導法に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」「保育方法研究」などを必修科目としています。

「保育・教育課程論」では、保育・教育の目的達成のために編成される教育課程の意義やその必要性および法的根拠、教育課程の編成手順・方法を理解し、保育・教育の具現と充実を図るための具体的な指導計画や保育・指導案を作成することができるようにします。

「保育内容総論」は、保育内容の指導法の総論と位置づけ、5領域の教科の学びとともに、それを総合的に捉える視点を養い、教育・保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や教育・保育方法について学びます。

また、「保育内容指導法」領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）は、それぞれの領域について理解を深め、保育者として、発達過程に即して子どもを理解し、総合的に指導・援助ができる実践的な力を修得します。

「教育方法・技術」は、教育の方法と情報機器、および教材の活用を踏まえた内容としています。

#### 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

「幼児理解」は幼児一人ひとりを理解し、その発達の課題や特性に応じた教育を行うために必要な基礎理論及び実際の指導や援助の方法について学びます。

#### 教職実践演習

「保育・教職実践演習（幼稚園）」は、教職課程の履修を通じて、保育者として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、3年次後期に開設しています。

#### 教育実習

教育実習に関する科目として「教育実習」、保育士資格取得のための実習科目（6科目）で構成しています。

「教育実習」（事前・事後指導1単位を含む）は、本学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間と、幼稚園等での幼稚園実習を3週間、合計4週間の実習を実施します。

#### 教科に関する科目

教科に関する科目は、保育者としての基本的な知識と表現技術を身につけるための科目です。

音楽の楽器演奏の表現技術を身につける科目として、「ピアノ演習」があります。入学時の演奏技術により履修レベル3段階「初心者・初級・中級」を設定し、レベル別指導を展開しています。

幼稚園免許状取得に関わる7科目（幼児音楽、ピアノ演習、図画工作、幼児体育、生活、国語、算数）を開設しています。

## 2) 保育士資格取得にかかわる教育課程について

#### 保育の本質・目的に関する科目

保育の本質・目的に関する科目として、保育者の役割、責務、定義および保育者に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの教育・保育と保護者支援を担う保育者の専門性などを学んでいく科目として、「保育者論」の他、「教育原理」「保育原理」「社会的養護」「社会福祉」「相談援助」「児童家庭福祉」の保育士関連7科目を必修科目として設定しています。

#### 保育の対象の理解に関する科目

保育の対象の理解に関する科目は8科目で構成し、そのうち、必修科目は6科目を設定しています。



「発達心理学」「教育心理学」は、子どもの発達にかかわる心理学の基礎知識を学び、子ども理解に基づく発達援助を行う実践力を修得する内容としています。

「子どもの保健」、「子どもの保健Ⅱ」では、子どもの健康と保健の意義、子どもの疾病と適切な対応の仕方など具体的に学んでいきます。

「子どもの食と栄養」は、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、家庭や学校、児童福祉施設における食生活の現状と課題について学びます。

「家庭支援論」では、家庭支援の意義と役割、子育て家庭の支援体制などを理解していきます。

#### 保育内容・方法に関する科目

保育内容・方法に関する科目として、幼稚園免許状、保育士資格取得の必修科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」（健康）（人間関係）（環境）（言葉）（表現）の

5領域を設定しています。さらに、保育士資格取得の必修科目「社会的養護内容」「保育相談支援」「乳児保育」「障害児保育」を設定しています。

#### 総合演習

総合演習に関する科目として、「保育・教職実践演習（幼稚園）」を3年次後期に必修科目として開設しています。今まで学んだ授業科目や「教育実習」、「保育実習」、「保育実習Ⅱ」もしくは「保育実習Ⅲ」を通しての学びを踏まえ、保育者として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するための内容としています。

#### 保育実習

保育実習に関する科目として、「保育実習指導」「保育実習」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅲ」の6科目と、幼稚園免許状取得の科目として「教育実習」で構成しています。

「保育実習」は、「保育実習指導」の事前指導後に「保育所実習」と「児童福祉施設実習（保育所を除く）」、おおむね10日間ずつの実習を実施します。

「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」は履修者の希望により、どちらかを選択し、「保育実習指導Ⅱ」もしくは「保育実習指導Ⅲ」の授業後に、おおむね10日間の実習を行います。

#### 保育の表現技術

保育内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を修得するために、保育士資格取得の必修科目として幼児音楽、図面工作、選択必修科目としてピアノ演習、幼児体育を設定しています。

## 7. 履修と免許状・資格の取得

### (1) 単位制と履修方法について

授業科目は教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

① 単位とは、学習時間を表したものであって、ある科目について所定の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定したときに、単位を取得したことになります。

② 学習期間は、年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週（期末試験を除く）とします。授業科目によっては前期または後期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。



③ 単位の計算方法は「短期大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

① 講義及び演習については15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業を持って1単位とします。

② 実験・実習および実技については30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

③ 授業時間は 時間連続（正味90分）を1時限としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。

④ 修得しようとする1か年の単位数は、希望資格取得に必要な単位数や、ひとりひとりの能力によってもいくらかは異なりますが、おおむね30単位程度が適当と思われます。

⑤ 授業科目の種類

保育科第二部に設置されている科目は、「必修科目」「選択必修科目」に大別されます。

#### 「必修科目」

##### 卒業必修科目

保育科第二部を卒業するために、必ず取得しなければならない科目

##### 資格・免許状取得のための必修科目

保育士・幼稚園教諭二種免許状を取得するために、必ず取得しなければならない科目

#### 「選択必修科目」

##### 卒業選択必修科目

保育科第二部を卒業するために、どちらかを選択し必ず取得しなければならない科目

（例：情報機器操作Ⅰ・Ⅱ）

##### 資格取得のための選択必修科目

保育士資格を取得するために、選択して取得しなければならない科目

（例：別表「教育課程表」にある◎科目）

#### 「選択科目」

選択科目は、皆さんが自由に選択して履修することが出来る科目です。

ただし、時間割の都合で開講されていない場合がありますので、履修の際は保育科第二部教員、教務課にご相談ください。

## (2) 資格・免許状の取得とその方法について

① 資格・免許状の取得 保育科第二部では、開講されている授業科目を履修することによって、次の資格等を取得することができます。

- ・教育職員免許状（幼稚園教諭二種免許状）の取得
- ・保育士資格の取得資格を必要としない場合は、65単位取得すれば卒業することができます。

資格等を取得するためにそれぞれの最低必要単位数等は次の通りです。

① 教育職員免許状の取得

幼稚園教諭二種免許状を取得するためには、最低66単位が必要になります。

なお、教育実習（5単位）が必修になります。

- ② 保育士資格の取得  
 保育士の資格を取得するための最低必要単位数は75単位になります。  
 なお、保育実習（9単位分）が必修になります。

**最低必要単位数**

授業科目		卒業	幼稚園教諭	保育士
教養教育		15	15	
専門教育	教科	必修科目 24 選択科目 26 } 50	必修科目 31 選択科目 20 } 51	必修科目 54 選択必修科目 6 } 60
	教職			
合計		65	66	75
基礎資格		大学に3年以上在学し65単位（内、日本国憲法2単位、情報機器操作2単位、英会話2単位、体育講義1単位、体育実技1単位）以上を修得		

② 授業時間及び授業日数

① 授業時間

曜日	1時限	2時限	5時限	6時限
月曜日～金曜日	8:50～10:20	10:30～12:00	16:10～17:40	17:50～19:20

クラスは、1～2時限を週5日間受講するクラスと5～6時限を週5日間受講するクラスに分かれており、前後期の切り替え時に交代となります。

② 授業日数

授業は前期（4月1日～9月30日）15週（期末試験除く）、後期（10月1日～3月31日）15週（期末試験を除く）で、年間の授業日数は後期末試験等の日数を含めて31週になります。

**(3) 履修届について**

教育課程表によって、卒業に必要な単位と資格取得に必要な科目と単位とをかね合わせ、その授業科目の授業計画と授業時間割表を参照して履修する科目を決めます。そして、別に交付される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。履修についての疑問や不明な点は、保育科第二部教員または、教務課にお尋ねください。

**(4) 成績評価と単位認定について**

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとに、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

① 成績評価は、100点を満点として、60点を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとの点数は次の通りとなっています。

- |              |            |
|--------------|------------|
| A+ (100～90点) | C (69～60点) |
| A (89～80点)   | D (59～50点) |
| B (79～70点)   | F (50点未満)  |

\*GPA向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

② 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件を備えた者に対して行います。

- 1 履修を届け出て履修確認が完了した者
- 2 通常の授業については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上を出席した者  
・3分の1を超える時数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして単位認定は行われず、当該科目は欠格となります。実習や病気などの止むを得ない場合を除き、欠席しないようにしてください。(30分以上の遅刻や早退については、欠席扱いとなります。)
- 3 学外実習を伴う実習科目については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習において、定められた全ての日数および時数を出席した者  
・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。
- 4 学習成績の評価が60点以上の者
- 5 所定の学費を納入した者

### 成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

#### ○授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

##### ・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置がとられます。

#### ○遅刻・早退・欠席

##### ・遅刻・早退1回につき1点減点

##### ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。

また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書(書式自由)で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合(基本実習、保育実習、教育実習等)
- ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験(面接を含む)を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

#### ○欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記、①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

#### ○質疑応答

##### <指名応答>

- ・指名した学生が質問に適切に応答したと認めたときは、その内容の評価に応じて1回につき1～2点が加点されます。
- ・質問に不適切な応答をしたと認めたときは、または質問に答えられなかったときは、1回につき1点が減点されます。

### <自発的応答>

- ・授業担当教員の質問に対して、自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと認めるときは、その内容の評価に応じて1回につき1～3点が加点されます。
- ・学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、授業担当教員の質問に対し、学生が自発的応答を1回もしなかったときは、5点が減点されます。

### ○小論文（宿題）

- ・未提出の小論文1件につき2点が減点されます。
- ・授業担当教員が小論文を優良と評価したときは、小論文1件につき内容の優良さに応じて1～3点が加点されます。

### ○小テスト

授業の理解度を計る小テストについて授業担当教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき1～3点が加点されます。

### ○期末テストとしてのレポート提出を課す場合

- ・レポートは原則として試験期間開始前に提出します。
- ・授業担当教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は、期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり、2点減点とします。
- ・提出がない場合のレポート評価は零点です。
- ・授業担当教員が定めた場合の最低時数に不足する場合も適宜減点されます。
- ・また、時数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様です。

### 授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行為
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係ない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

保育科第二部 教育課程

平成27年4月

授 業 科 目		授 業 形態	授 業 回数	履修年次と単位数			必 修 科 目				
				1年	2年	3年	卒 業	幼 稚 園	保 育 士		
教 養 教 育 科 目	一 般 教 養 科 目	本学の教育	講義	8	1			○	○	○	
		生活教養	講義・演習	8	1			○	○	○	
		国語表現	講義	30	④			○	○	○	
		日本国憲法	講義	15			2	○	○	○	
		情報機器操作Ⅰ(初級)	演習	15		} 2		◎	◎	◎	
		情報機器操作Ⅱ(中級)	演習	15							
		国際理解論	講義	8	1			○			
		国際理解演習	演習	15		2					
		英会話	演習	15	2			○	○	○	
		体育講義	講義	8	1			○	○	○	
体育実技	実技	23	1			○	○	○			
専 門 教 育 科 目	教 育 の 基 礎 理 論	保育者論	講義	15		2		3 科 目 6 単 位	○	○	
		社会福祉	講義	15	2					○	○
		相談援助	演習	15			1			○	○
		児童家庭福祉	講義	15	2					○	○
		教育原理	講義	15			2			○	○
		保育原理	講義	15	2					○	○
		保育原理Ⅱ	講義			2					○
		社会的養護	講義	15	2					○	
		家庭教育	講義			2		4 科 目 8 単 位			
		教育心理学	演習	15			1				○
		発達心理学	講義	15		2				○	○
		発達心理学Ⅱ	講義			2					
		子どもの保健	講義	30			④				○
		子どもの保健Ⅱ	演習	15			1				○
子どもの食と栄養	演習	15			2				○		
家庭支援論	講義	15		2				○			
保育・教育課程論	講義	15			2	4 科 目 6 単 位	○	○			
保育内容総論	演習	15	1					○	○		
保育内容指導法(健康)	演習	15	1					○	○		
保育内容指導法(人間関係)	演習	15		1				○	○		
保育内容指導法(環境)	演習	15		1				○	○		
保育内容指導法(言葉)	演習	15	1					○	○		
保育内容指導法(表現)	演習	15		1				○	○		
保育方法研究	演習	30		②				○	◎		
社会的養護内容	演習	15		1					○		
保育相談支援	演習	15			1				○		
乳児保育	演習	30			②				○		
障害児保育	演習	30		②				○			
教育方法・技術	演習	15			2		○	◎			
幼児理解	演習	15			2		○	◎			
教職実践	総合演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習			2		○	○		
教 科 に 関 する 科 目	保 育 の 表 現 技 術	幼児音楽	演習	30		②		2 科 目 単 位	○	○	
		ピアノ演習	演習	30	②					◎	
		図画工作	演習	30	②					○	○
		幼児体育	演習	30		②					◎
		生活	講義	15		2					
		国語	講義	15		2					
		算数	講義	15		2					
教育実習	教育実習(事前・事後指導1単位を含む)	実習			5			○			
保 育 実 習	保育実習指導	演習		2					○		
	保育実習(事前・事後指導1単位を含む)	実習		4					○		
	保育実習指導Ⅱ	演習			1				◎		
	保育実習Ⅱ	実習			2				◎		
	保育実習指導Ⅲ	演習			1				◎		
保育実習Ⅲ	実習			2				◎			

○印—必修科目 ◎印—選択必修科目 数字②④—通年科目

A、Bいずれかが保育士必修

最低必要単位数

授 業 科 目	卒 業	幼 稚 園 教 諭	保 育 士
教 養 教 育 科 目	15	15	15
専 門 教 育 科 目	必修科目 24	50	必修科目 54
	選択科目 26		選択必修科目 6
合 計	65	66	75
基 礎 資 格	大学に3年以上在学し65単位(内、日本国憲法2単位、情報機器操作2単位、英会話2単位、体育講義1単位、体育実技1単位)以上を修得		

## ■保育科第二部年次進行表(カリキュラムツリー)

保育科第二部の教育目標は、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を養成											
[1]「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得											
[2] 項目[1]の必修条件であり、教育実習並びに保育実習を通して、発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握し、保育者に必要な知識、技術、態度を修得											
			↑				↑			↑	
専門教育科目				教養教育科目				専門教育科目(実習)			
幼稚園	教育の基礎理論		教育課程および指導法	教職実践	教科に関する科目		情報機器操作等具体的技能の修得や、英会話、日本国憲法など資格免許取得に必要な基礎的学修	事前指導	教育実習	保育実習Ⅲ	保育実習Ⅱ
	保育の本質・目的	保育の対象の理解	保育の内容・方法	総合演習	保育の表現技術	保育実習Ⅱ					
	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
3年		幼児理解									
		子どもの食と栄養	保育方法・技術								
		子どもの保健Ⅱ	乳児保育								
		子どもの保健	保育相談支援				(国際理解演習:1,2,3年生共通)				
		教育原理	保育・教育課程論	保育・教職実践演習(幼稚園)			日本国憲法				保育実習Ⅱ
		相談援助									
2年			障害児保育								
			社会的養護内容								
		家庭教育	保育方法研究	算数							
		家庭支援論	保育内容指導法(表現)	国語							
		発達心理学Ⅱ	保育内容指導法(環境)	生活			(国際理解演習:1,2,3年生共通)				
		保育者論	保育内容指導法(人間関係)	幼児体育							
1年			保育内容指導法(人問関係)	幼児音楽							
		社会的養護									
		教育原理	保育内容指導法(言葉)								
	児童家庭福祉	保育内容指導法(健康)	図画工作								
	社会福祉	保育内容総論	ピア演習								

## 平成 29 年度保育科第二部「授業計画」目次【3 年生】

〔教養教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
日本国憲法	新村 繁文	2		2		2			15
国際理解演習 (シンガポール)	中丸 一志 呂 学如		2		2		2		17
国際理解演習 (バリ島)	佐藤 敦子		2		2		2		19

〔専門教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
相談援助	高橋 雄二		1		1	1		保育の本質・目的から6単位卒業必修	21
教育原理	関本 仁		2	2		2		保育の本質・目的から6単位卒業必修	23
教育心理学	小関 賢		1		1	1		保育の対象の理解から8単位卒業必修	25
子どもの保健	金子里美		4		4	4		保育の対象の理解から8単位卒業必修	27
子どもの保健Ⅱ	金子里美		1		1	1		保育の対象の理解から8単位卒業必修	30
子どもの食と栄養	中村 啓子		2		2	2		保育の対象の理解から8単位卒業必修	32
保育・教育課程論	渡辺 博志		2	2		2		保育の内容・方法から6単位卒業必修	34
保育相談支援	今 清孝		1		1	1		保育の内容・方法から6単位卒業必修	37
乳児保育	中野 明子		2		2	2		保育の内容・方法から6単位卒業必修	39
教育方法・技術	佐久間 正弘		2	2		2		保育の内容・方法から6単位卒業必修	43
幼児理解	佐藤 菊子		2	2		2		保育の内容・方法から6単位卒業必修	45
保育・教職実践演習 (幼稚園)	渡辺 博志		2	2		2			47
教育実習 (ダブルメジャー共用)	長島 輝子 中野 明子 関本 仁		5	5			5	事前事後指導 1単位を含む	50
保育実習Ⅱ	中野 明子		2		2	2		いずれかを選択 2単位必修	52
保育実習Ⅲ	神戸 信行			53					
保育実習指導Ⅱ	中野 明子		1		1	1		いずれかを選択 1単位必修	54
保育実習指導Ⅲ	神戸 信行			56					



授業科目名	日本国憲法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	非常勤講師 ふりがな にいむらしげふみ 氏名：新村繁文 (本務先：福島大学 職名：特任教授)	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭		教養教育科目	必修	
保育士		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で対応する。		

【授業の概要】 日本国憲法の基本的原則について、各条文や判例を交えて解説していく。また本科目が教職免許の課程における必修科目である点を踏まえ、特に教育を受ける権利、幼児児童の権利擁護の観点を受講者と議論を深めていくよう進めていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日本国憲法の基本理念・基本構造を正確に学ぶことをテーマとし、具体的な事例や設問に即して検討する。福祉国家理念を基礎にした20世紀的人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討し、人権、教育を受ける権利等について、実生活に如何に反映されているか、理解していくことを目標とする。	目標	A、C、D、J

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス (法の世界と人権・権利) ～ 憲法にはいる前に、法の基本的概念を学ぶ	授業計画・レジュメ	
2	近代市民憲法の成立と立憲主義 (1) ～ 近代市民革命とその基本原理を学ぶ	レジュメ・必要に応じ補足資料	新聞等で関連記事を読む
3	近代市民憲法の成立と立憲主義 (2) ～ 国民主権と権力分立の考え方を学ぶ	同上	同上
4	近代市民憲法の成立と立憲主義 (3) ～ 自由権的基本権から社会権的基本権への展開	同上	同上
5	近代市民憲法の成立と立憲主義 (4) ～ 社会権的基本権の考え方を学ぶ	同上	同上

6	基本権各論（1） ～ 憲法13条（個人の尊重、自己決定権、プライバシー等）を学ぶ	レジュメ・必要に応じ補足資料	新聞等で関連記事を読む
7	基本権各論（2） ～ 精神的自由権と経済的自由権の違いを学ぶ	同上	同上
8	基本権各論（3） ～ 憲法25条（生存権）を学ぶ	同上	同上
9	基本権各論（4） ～ 憲法26条（教育を受ける権利）の基本的考え方を学ぶ	同上	同上
10	基本権各論（5） ～ 子どもの権利について多面的に考える	同上	同上
11	基本権各論（6） ～ 憲法27条（勤労の権利）の考え方を学ぶ	同上	同上
12	統治機構各論（1） ～ 国会について学ぶ	同上	同上
13	統治機構各論（2） ～ 内閣について学ぶ	同上	同上
14	統治機構各論（3） ～ 裁判所について学ぶ	同上	同上
15	統治機構各論（4） ～ 憲法保障のあり方を学ぶ	同上	同上
期末試験	期末試験		

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

期末試験を実施し、主にその得点により成績評価する。

試験は100点満点・適切な語句等を記入する穴埋め方式を中心とする。※詳細は、授業時に説明する

**【教科書】書名： いちばんやさしい憲法入門**

著者名： 初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行

発行所： 有斐閣

価格： 1,600円(税別)

**【参考書】適宜指示する。**

授業科目名	国際理解演習 (シンガポール)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	<small>なかまる かずし</small> 兼担教授：中丸 一志 <small>ろ がくじよ</small> 兼担准教授：呂 学如		開講期	後期
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
幼稚園教諭二種免許状	〃	〃		
保育士	〃	〃		
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。			

<b>【授業の概要】</b> 「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。 実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。 また、それについての個別指導も行う。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)</b>		
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	A、G、L	
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学ぶ。	目標	B、H、I、J、L	
各自の興味ある分野(ビジネス、観光、デザイン、建築など)を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深める。	目標	A、G、J、L	

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配付資料	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポール共和国の歴史(歴史・人種・言語)	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業(貿易・観光)	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査

6	シンガポールの交通事情	配付資料、インターネット 検索	シンガポールの 調査
7	シンガポールの食文化	配付資料、インターネット 検索	シンガポールの 調査
8	事前準備について	配付資料、インターネット 検索	海外旅行の調査
9	現地での行動について（渡航前の最終確認）	配付資料、インターネット 検索	シンガポールの 調査
10~13	現地体験①（4コマ）合同研修 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・ 研究
14~17	現地体験②（4コマ）合同研修 マーライオンパーク、幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・ 研究
18~21	現地体験③（4コマ） テーマ別研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・ 研究
22~25	現地体験④（4コマ） テーマ別研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・ 研究
26~29	現地体験⑤（4コマ） テーマ別研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・ 研究
30	最終レポート発表	プレゼン発表 事後指導	体験談発表
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>(1) レポート 事前 20%、最終レポート 40%で評価する。</p> <p>(2) 旅行中の行動態度 団体行動・グループ行動のあり方で 40%評価する。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：プリント資料を適宜配布し、各自の研究テーマに沿って指導する。</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b></p> <p>1. 海外研修日程は、平成 30 年 2 月 25 日～3 月 2 日（6 日間）を予定している。</p> <p>2. シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となる。</p> <p>3. 最少催行人数を 15 名、最多催行人数を 20 名程度とする。</p> <p>なお、履修者が 15 名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が 15 名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講とする。</p> <p>4. 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は 10 月初旬より開始する。</p> <p>5. 単位の認定が 3 月となるため、卒業年次性は卒業単位数に含めないこと。</p> <p>※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化等、十分な安全を確保できないと判断した場合には、海外研修の実施を中止する場合がある。</p>			

授業科目名	国際理解演習(バリ島)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任教授 <small>ふりがな さとう あつこ</small> 氏名：佐藤 敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	〃	
保育士		〃	〃	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 1. 音楽や踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 2. 現地でのバリダンスレッスン、模擬結婚式、ミスター&ミズバリコンテストに参加する等、バリ島の芸術文化を体験し、人々と触れ合うことにより、日本文化との比較研究を行う。 3. ガムラン音楽や踊りを通しての心の癒しを体験する。 4. ハラパン幼稚園（本学認定こども園の姉妹園）を訪問して、バリ島幼児教育の実際について学ぶ。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)
1. バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける。			目標 A・H
2. バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、保育者としての表現力の向上を図る。			目標 B・E・F・G・I・L

### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について	授業計画 資料配付	バリ島の事前学習
2	交歓交流について	資料配付	〃
3	バリ島の宗教・歴史(1) バリ島の芸術 各自の研究テーマについて	〃	〃
4	バリ島の地理(概説)	〃	〃
5	交流の練習(1)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手続き
6	バリ島の宗教・歴史(2) バリ島の文化 交流の練習(2)	資料配付 歌とダンスの練習	〃
7	交流の練習(3)	歌とダンスの練習	〃
8	交流のダンス指導(1)	ゲストスピーカー	〃
9	交流の練習(4)	歌とダンスの練習	〃
10	交流の練習(5)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手続き
11	交流のダンス指導(2)	ゲストスピーカー	〃
12	交流のダンス指導(3)	〃	〃
13	交流の練習(6)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手続き

14	交流の練習(7)	〃	〃
15	交流の練習(8)	〃 〃	〃
16	交流の練習(9)	〃	〃
17	交流の練習(10)	〃	〃
18	研修旅行の実施(1) バリダンスレッスン①(1コマ)	バリ島海外研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
19	研修旅行の実施(2) タガス村での交流など(2コマ)	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	研修旅行の実施(3) ハラパン幼稚園訪問、園児との交流(1コマ)	〃	〃
22	研修旅行の実施(4) バリダンスレッスン②(1コマ)	〃	〃
23	研修旅行の実施(5) ケランビタン宮殿訪問他(5コマ)	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	事後指導(1)	レポート作成	レポートのまとめ
29	事後指導(2)	〃	〃
30	事後指導(3)(レポート発表)	レポート提出	〃
<p><b>【到達度の評価(評価方法・基準)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 旅行前の事前研究(10%)</li> <li>2. 現地で開催する交流の練習意欲と参加態度(15%)</li> <li>3. 授業の出席、および事前練習への参加態度(20%)</li> <li>4. 旅行中の参加態度(35%) (集団行動の円滑化への努力、マナー、現地バリ島の人々との交流への積極性、友人との協調性) *旅行中の参加態度の詳細については、別途説明する。</li> <li>5. 最終レポートの内容(20%)</li> </ol> <p>※ 海外研修における現地研修については、病気等やむを得ない場合を考慮して5分の4以上の日数及び時数を出席すること。</p>			
<p><b>【その他補足事項】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修届は5月20日までに行うこと。</li> <li>2. ゲストスピーカー等による特別講義、交歓交流の練習など、授業時間外に実施する場合がある。</li> <li>3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回実施する。</li> <li>4. 渡航手続は、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。</li> <li>5. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。(現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい)</li> <li>6. 研修旅行中、持病(乗り物酔いを含む)のある方は、各自の責任において薬を持参すること。</li> <li>7. 団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。(現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする)</li> <li>8. 現地での体調管理については、最大限サポートをするが、自己管理、自己責任とする。</li> <li>9. 研修旅行参加に伴う「承諾書」は、必ず提出すること。</li> <li>10. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合がある。</li> <li>11. 最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。 ※ 海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化(テロ等)や、強度性の鳥インフルエンザが発症する等、十分な安全を確保できないと判断した場合、海外研修の実施を中止、または延期する場合がある。 なお、平成29年度の海外研修実施の有無、研修日程は4月中に決定する。</li> </ol>			

授業科目名	相談援助		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師 ふりがな たかはし ゆうじ 氏名：高橋 雄二		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、社会福祉専門職に必要な相談援助技術をグループワーク等の演習を通し、相談実践の価値・知識・技術について、具体的な演習課題を通して修得する。 また、学習すべきポイントに関する定義、理論、アプローチ、相談援助者にとって必要と思われる法制度やサービスについての知識を修得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育実践に必要な相談援助にかかわる知識と技術を修得する。	目標	A、B、C、D		
相談援助者として心構えを身につけると共に、実践的な相談援助技術を身につける。	目標	A、E、G、J、 K、L		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法。授業の進め方と留意点 第1講 相談援助の理論 相談援助理論の体系化	授業計画 教科書補足資料1	
2	第2講 相談援助の意義 保育士による相談援助の意義	教科書補足資料2	教科書 p14～24 を事前に読む
3	第3講 相談援助の機能 相談援助の状況 相談援助の機能	教科書補足資料3 DVD 視聴(30分)「障害者虐待を食い止めるために」	教科書 p26～36 を事前に読む
4	第4講 相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとは何か ソーシャルワーカーの専門性	教科書補足資料4	教科書 p38～48 を事前に読む



5	第5講 保育とソーシャルワーク 保育所に求められるソーシャルワーク	教科書補足資料 5	教科書 p50～60 を事前に読む
6	第6講 相談援助の対象 保育における相談援助 対象としての児童・保護者・地域	教科書補足資料 6 グループワーク「受容的態 度の必要性」	教科書 p62～72 を事前に読む
7	第7講 相談援助の過程 相談援助の展開過程 相談援助過程で活用される面接技法	教科書補足資料 7 DVD 視聴(30分)「ぼけなん か恐くない」	教科書 p74～84 を事前に読む
8	第8講 相談援助の技術・アプローチ 保育士における相談援助の根幹 保育者に対する具体的な支援	教科書補足資料 8 グループワーク「傾聴につ いての理解」	教科書 p86～96 を事前に読む
9	第9講 相談援助の計画・記録・評価 相談援助の計画 相談援助の記録 相談援助の評価	教科書補足資料 9 グループワーク「ジェノグ ラムとエコマップの作成」	教科書 p98～108 を事前に読む
10	第10講 相談援助の関係機関との協働 関係機関との協働の必要性 関係機関の概要	教科書補足資料 10	教科書 p110～ 120 を事前に読 む
11	第11講 相談援助の多様な専門職との連携 保育士に関連する法規および制度に規 定される連携	教科書補足資料 11	教科書 p122～ 132 を事前に読 む
12	第12講 相談援助の社会資源の活用、調整、開発 相談援助における社会資源とは何か 社会資源の活用、調整、開発	教科書補足資料 12 DVD 視聴(30分)「生きるこ とは、あきらめない」	教科書 p134～ 144 を事前に読 む
13	第13講 ロールプレイ、フィードバック等による 事例分析 ロールプレイとは 保育場面におけるフィールドワークの 活用	教科書補足資料 13 ロールプレイ「障害が疑わ れる子どもの保護者への対 応」	教科書 p146～ 158 を事前に読 む
14	第14講 虐待の予防と対応等の事例分析 児童虐待の定義 児童虐待の現状・増加の背景	教科書補足資料 14	教科書 p160～ 170 を事前に読 む
15	第15講 障害のある子どもとその保護者への支援 等の分析 障害の捉え方・家族支援の原則	教科書補足資料 15 DVD 視聴(30分)「君と歩む 道」	教科書 p172～ 182 を事前に読 む
期末 試験	期末試験		
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          (1) 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施          (2) レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：相談援助          著者名：松原康雄 村田典子 南野奈津子          発行所：中央法規出版株式会社          価格：2,000円(税別)</p>			

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師 <small>ふりがな</small> <small>せきもと</small> <small>ひとし</small> 氏名：関本 仁		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	必修	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々 の社会・文化を背景として、どのように教育という ものを捉えてきたのか。教育思想の歴史を概観し つつ、その様々な思想が現在おこなわれている 教育に対してどのような影響を与えているのかに ついて考える。 特に、子どもの福祉に関わる教育論に注目しな がら、子どもたちにとって豊かな育ちを支える 教育のあり方について、皆さんとともに考 えていきたい。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
教育の意義・目的について学び、児童福祉とのかかわりについて理解する。	目標	A, C	
教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。	目標	A, C	
国内外を含めた、さまざまな教育制度を理解する。	目標	A, C	
教育実践でなされているさまざまな取り組みについて理解する。	目標	D, J	
社会教育・生涯学習の観点から、現代の教育的課題について理解する。	目標	J, K	

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育とは何か	授業計画 スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	配付資料の復習
2	教育の目的：教育と教化と形成	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配付資料の復習
3	教育と児童福祉	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配付資料の復習
4	西洋における教育思想と歴史(1) —古代～コメニウス、ルソー、ペスタロッチー—	確認小テスト、スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み(予習) 配付資料の復習

5	西洋における教育思想と歴史（2） —フレーベル、デューイ～現代—	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
6	日本の教育思想と歴史	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
7	子ども観と教育観	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
8	教育制度の基本	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
9	教育にかかわる法律と行政	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
10	さまざまな国の教育制度	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
11	教育実践の基礎	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
12	さまざまな教育実践	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
13	社会教育と生涯学習	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
14	教育の権利保障	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み （予習） 配付資料の復習
15	教育の現代的課題／まとめ	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	配付資料の復習
期末試験	期末試験		

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

- ・ 期末試験・・・50%
- ・ 授業内での確認小テスト・・・20%
- ・ 授業態度などの平常点・・・30%

**【教科書】** 資料を配付する。

**【その他補足事項】**

教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドのハンドアウトを配付する。

予習としてその下読みをおこない、授業の準備をしておくこと。

参考図書に関しては、授業の進行に応じて、適宜紹介する。

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼担教授 ふりがな こせき けん 氏名：小関 賢		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		専門教育科目	選択	
保育士		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育心理学の基本的な事項について理解する。また、教育の諸問題について、教育心理学の視点から説明したり自己の考えを述べることができる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育心理学の基本的な事実や現象について理解できる。			目標	A、C
保育現場で問題となるような事項について、教育心理学の用語を用いて説明できるようになる。			目標	A、I
保育現場で生じ得るさまざまな活動や問題点について、教育心理学的な視点から自己の見解を述べることができる。			目標	C、K

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書補足資料 1	教科書 p1~2 を事前に読む
2	教育と発達1 教育心理学とは 成熟と学習	教科書補足資料 2 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p3~7 を事前に読む
3	教育と発達2 子どもを取り巻く教育環境 文化・教師	教科書補足資料 3 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p7~12 を事前に読む
4	学習の原理1 学習とは 条件づけ1	教科書補足資料 4 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p13~17 を事前に読む
5	学習の原理2 条件づけ2 学習の理論	教科書補足資料 5 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p17~19 を事前に読む

6	学習の原理 3 潜在学習 洞察学習・観察学習	教科書補足資料 6 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p19～27 を事前に読む
7	学習と動機づけ 1 外発的動機づけ 内発的動機づけ	教科書補足資料 7 ミニテスト	教科書 p28～35 を事前に読む
8	学習と動機づけ 2 失敗感情と効力感 原因帰属	教科書補足資料 8 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p35～39 を事前に読む
9	知力と学力 知能とは何か 知能の構造	教科書補足資料 9 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p40～53 を事前に読む
10	教授－学習過程 教授－学習課程のモデル 授業の評価・分析	教科書補足資料 10 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p54～67 を事前に読む
11	教育評価 教育評価の意義 教育評価の問題点	教科書補足資料 11 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p68～80 を事前に読む
12	教育測定と統計 教育測定 平均の分布と変換	教科書補足資料 12 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p81～92 を事前に読む
13	パーソナリティと適応 1 パーソナリティ形成と要因 パーソナリティの捉え方	教科書補足資料 13 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p93～104 を事前に読む
14	パーソナリティと適応 2 適応 適応機制	教科書補足資料 14 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p104～ 108 を事前に読 む
15	学級集団と問題点 学級集団 現状と問題点	教科書補足資料 15 ミニテスト・意見発表 ・ディスカッション	教科書 p109～ 141 を事前に読 む
期末 試験	期末試験		
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          (1) 期末試験（記述式テスト：70 点満点）を学期末に実施する          (2) 授業で実施したミニテスト・意見発表・ディスカッションは 30 点満点に換算する</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書 名： 教育心理学          著者名： 本郷一夫・八木成和（編）          発行所： 建帛社          価 格： 1,900 円(税別)</p>			

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	3年次
担当教員	非常勤講師 ふりがな かねこ さとみ 氏名：金子 里美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		専門教育科目	選択	
保育士		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 子どもの最善の利益・幸福を念頭に置き、乳幼児の心身発達の指標と乳幼児に多い病気について、教科書図説プリント、視聴覚教材を用いて、乳幼児の心身の健康管理の指標ができることを目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
1. 健康増進を図る保健活動の意義をレポートできる。	目標	A・C・J
2. 心身の発育や生理機能の発達と保健の関連をレポートできる。	目標	A・C
3. 子ども期に多い病気とその予防策、適切な対応法が発表できる。	目標	A・I・G・K
4. 保育環境の衛生管理、安全管理、安全教育の要点が分かる。	目標	A・J
5. 施設等における子どもの心身の健康、安全の実施体制を理解する。	目標	A・J

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 子どもの保健の意義・目的・内容、子育て支援策	授業計画 テキスト、プリント	「健やか親子21」 子育て格言、諺
2	子供が育つ社会	プリント解説・講義、グループ討議	「子どもの貧困」
3	身体の発育と保健	DVD「乳幼児の体の発育」 視聴	発育過程一覧表 作成
4	運動機能の発達と保健 原始反射、粗大運動、微細運動	DVD「乳幼児の心の発達」 視聴、発達指標の理解	課題ミニレポート 完成
5	精神の発達と保健	DVD「赤ちゃんはこんなに素晴らしい」 視聴	課題ミニレポート 完成

6	運動器系の構造と機能、骨・筋・関節の病気	VTR「運動器系」視聴	課題ミニレポート完成
7	循環機能	VTR「循環器系」視聴	課題ミニレポート完成
8	心臓、血管の病気	プリント、OHP資料でグループ学習	課題ミニレポート完成
9	呼吸機能	VTR「呼吸器系」視聴	課題ミニレポート完成
10	呼吸器系の病気	プリント、OHP資料でグループ学習	課題ミニレポート完成
11	消化器系機能	VTR「消化器系」視聴	課題ミニレポート完成
12	栄養と代謝	DVD「食べ物探検」「味覚の発達」絵本「食べ物の旅」	課題ミニレポート完成
13	消化器の病気	プリント、OHP資料でグループ学習	課題ミニレポート完成
14	血液の組成・指標	プリント解説	課題ミニレポート完成
15	血液系の病気	プリント解説、	課題ミニレポート完成
16	前期のまとめ 前期末試験		
17	排泄・泌尿器系の発達	プリント資料でグループ学習	課題ミニレポート完成
18	腎・泌尿器系の病気	プリント解説	課題ミニレポート完成
19	内分泌・代謝系の病気	プリント解説	課題ミニレポート完成
20	免疫機能	プリント解説	課題ミニレポート完成
21	感染症	スライド映像視聴	課題ミニレポート完成
22	アレルギー疾患、予防接種	プリント解説	課題ミニレポート完成
23	脳神経・感覚器系	VTR「感覚器」視聴	課題ミニレポート完成
24	精神・神経系の病気	DVD「発達障害」視聴	課題ミニレポート完成



25	皮膚の病気	プリント解説	課題ミニレポート完成
26	視覚、聴覚の病気	プリント解説	課題ミニレポート完成
27	生活習慣と健康	プリント解説、グループ学習	課題ミニレポート完成
28	災害・事件・事故に遭遇した子どもの健康管理	DVD「きもちのきせき」視聴	課題ミニレポート完成
29	健康・安全管理の推進	プリント解説、グループ学習	課題ミニレポート完成
30	後期の振り返り、まとめ	質疑応答、ワークシート	プリント内容再点検
期末試験	期末試験	ペーパー試験	
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          前期末、後期末試験（70%）課題レポートおよび授業参加度（30%）で評価する。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：子どもの保健実習ノート          著者名：小林 美由紀          発行所：診断と治療社          価格：2,000円(税別)</p>			

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	非常勤講師 ふりがな かねこ さとみ 氏名：金子 里美		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 子どもの発育に相応した健康管理上の課題を理解し、発育状況の観察・評価、日々の健康、安全で衛生的な保育環境整備、事故防止、応急手当、感染予防等健康管理に必要な技術を演習を介して身につける。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)		
1. 子どもの発育過程が分かる	目標	A	
2. 乳幼児の健康管理の方法として、必要な観察・計測ができる。	目標	A・B	
3. 計測値、実施事項の基準値がわかり評価ができる	目標	A・B・J	
4. 安全、最善の環境を理解し、課題発見、適切な対応を考える	目標	A・G・J・K	
5. グループ。個人で健康啓蒙資料を作る	目標	A・B・E・G・I・K	

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 評価方法・授業の進め方・留意点	授業計画	
2	健康な子どもの発育過程	DVD「世界の子育て」 グループ学習、テキスト	ミニレポート「赤ちゃんの能力」
3	乳幼児の健康管理 1. 身体計測	テキスト解説 人形・学生間実演	ミニレポート「計測ポイント・留意点」
4	2. 計測値の評価 パーセンタイル 指数 肥満度	カウプ指数・肥満度計算、 パーセンタイル曲線記入	演習課題おさらいテスト
5	3. バイタルサインの測定	演習ポイントプリント 学生間で実演	演習課題おさらいテスト

6	4. 視覚・聴覚機能確認法	演習プリント 自作テスト図活用	演習課題おさらいテスト
7	5. 保育環境と日常生活習慣	テキスト解説	ミニレポート「子どもの生活・ポイント」
8	安全管理 1. 事故の特徴	小児の死因統計、事故の特徴 年齢、時間、場所	演習課題おさらいテスト
9	2. 事故の防止	DVD「子どもの事故は半減 できる」KYTプリント	演習課題ミニレポート
10	3. 応急手当	テキスト解説 包帯法、搬送模擬体験	体験レポート
11	4. 救命処置、通報、	テキスト、プリント解説 通報模擬体験	たいけんレポート
12	体調不良時の対応 1. 観察、対処	プリント解説	演習課題おさらいテスト
13	感染予防対策 1. 手洗い 2. 消毒用液希釈計算	テキスト解説	演習課題ミニレポート
14	「健やか親子21」「子育て支援策」 広報活動	健康便り、ポスター作成	完成作品提出
15	総括リフレクション	プリント解説 質疑応答	
期末 試験	期末試験		
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          期末試験（70%）各回の演習課題レポート・取り組み状況（30%）で評価する。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書名：これならわかる！子どもの保健実習ノート～子育てパートナーが知っておきたいこと～          著者名：小林 美由紀          発行所：診断と治療社          価格：2,000円(税別)</p>			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	非常勤講師 ふりがな なかむら けいこ 氏名：中村 啓子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭	〃	選択		
保育士	〃	必修		
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問に対応する。			

【授業の概要】 小児期の栄養は、保育者にゆだねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体のしくみ及び発達を理解する必要がある。子どもの食と栄養では栄養学の基礎知識、子どもの現状を知り食育の必要性とすすめ方など保育士として必要な知識や技法をについて習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
・子どもの発育・発達と食生活について説明できる。		目標	A・C・D・I・K	
・子どもの健康と食生活の意義について説明できる。		目標	A・C・D・I・K	
・子どもの食生活の現状を知り、食育の必要性を感じることができる。		目標	A・C・D・E・F・I・K	
・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。		目標	A・C・D・E・F・I・K	

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1、授業の概要と目標 2、評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 子どもの発育・発達と支援 小児期栄養の特徴 発育・発達 子どもの発育・発達のための支援	授業計画 グループワーク	教科書P9～22を事前に読む
2	第2章 栄養・食品の知識 栄養の生理 食べ物のゆくえ 栄養素の働き 小児期の食べ物—各種食品の栄養的特徴 日本人の食事摂取基準	教科書補足資料	教科書P23～52を事前に読む
3	第2章 栄養・食品の知識 望ましい献立と食べ方 第3章 妊娠・胎児期の食生活 妊娠のメカニズムと出産 妊娠期の食生活	教科書補足資料	教科書P52～68を事前に読む

4	第4章 乳児期の食生活 乳児期の特徴 乳汁期の栄養 母乳栄養 人工栄養 混合栄養 乳期の栄養 ミニテスト	授乳・離乳の支援ガイド	教科書 P 69～88 を事前に読む
5	第4章 乳児期の食生活 離乳期の栄養 離乳食の進め方 離乳食の与え方 離乳の支援のポイント 調乳 離乳食	実習	教科書 P 89～ 111 を事前に読む
6	第5章 幼児期の食生活 幼児期の特徴 幼児期の食べ物	教科書補足資料	教科書 P 114～ 124 を事前に読 む
7	第5章 幼児期の食生活 食生活の意義と食習慣	教科書補足資料	教科書 P 125～ 128 を事前に読 む
8	第5章 幼児期の食生活 幼児食	実習	教科書 P 129～ 137 を事前に読 む
9	第6章 児童福祉施設における食事と栄養 保育所給食 食生活指導 食物アレルギーについて	教科書補足資料	教科書 P 138～ 158 を事前に読 む
10	第6章 児童福祉施設における食事と栄養 その他の児童福祉施設の給食 学校給食 生涯発達と食生活 ミニテスト	教科書補足資料	教科書 P 158～ 168 を事前に読 む
11	第7章 障がいのある子どもの食生活 障がい児の特徴と食生活 障がい児の食生活の問題点と対応 スムーズな食事を行うための食器類	教科書補足資料	教科書 P 169～ 176 を事前に 読む
12	第8章 子どもの食生活 子どもの食生活への配慮)	教科書補足資料	教科書 P 177～ 191 を事前に読む
13	第8章 子どもの食生活 子どもを取り巻く食環境 食の安全性	教科書補足資料	教科書 P 192～ 207 を事前に読 む
14	第9章 食育の基本 食育とは 保育所における食育 第10章 食育の実践 楽しい食事の環境を整える 食生活や健康に関する絵本、ビデオなど	保育所における食育教材	教科書 P 208～ 221 を事前に読 む
15	第10章 食育の実践 基本的な食事のマナー、食に関するカルタづくり 食育実践および食を通じた保護者への支援 まとめ	カルタづくり	教科書 P 222～ 230 を事前に読 む
期末 試験	期末試験	ペーパーテスト	

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

- (1) 筆記試験、記述方式のテストを期末に実施する（70点）。
- (2) 授業への参加態度（討議・発言・質問など）を30点満点で評価する。

**【教科書】** 書名：子どもの食と栄養

著者名：峯木真知子、高橋淳子編

発行所：みらい

価格：2,200円(税別)

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任教授 ふりがな わたなべ ひろし 氏名：渡辺 博志		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	必修	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 認定こども園、幼稚園、保育所及び接続する小学校低学年で行われている保育・教育活動は、国の意図的、計画的な仕事として行われていることを理解できるようにする。国はその目的を達成するため保育・教育活動の基準として幼稚園教育要領、保育指針、小学校学習指導要領を告示し、充実した保育・教育の具現に努めていること、また各幼稚園、保育所では、地域や子どもの実態を踏まえた保育・教育活動を行うため、最適な教育課程を編成し、特色ある保育・教育を推進していることなどをとらえることができるようにする。 さらに教育課程編成の必要性、指導計画や保育・指導案の作成についても具体事例などをもとに考察するとともに、計画作成の作業に取り組むことができるようにする。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
保育・教育の目的達成と教育課程の意義や必要性および法的根拠や編成手順・方法を自分の言葉で表現し説明できる。	目標	A・D・I
日々の保育・教育に必要な具体的な指導計画や保育・教育のための指導案を作成することができる。	目標	C・D
指導と評価の観点に立ち、より効果的で質の高い教育課程編成のあり方・方法について自分の視点で論じることができる。	目標	J・K

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 <b>【予習・復習】</b>
1	1. オリエンテーション 2. 「養育・保育・教育」の共通点と相違点	授業計画 パワーポイント資料 プリント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習
2	目的・計画的な営み ・教育課程の意義と必要性 ・教育課程・カリキュラムとは ・新しいカリキュラムの考え方	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p11～19 キーワード予習 学修ミニレポ①

3	「保育」「教育」の仕事…意図的・計画的にすすめるために ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の必要性	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 ペア・グループ討議 パワーポイント資料	教科書 p22～27 キーワード予習 学修ミニレポート②
4	教育課程編成の基本的な考え方 ・幼稚園教育要領ができるまで ・めざす幼児像 具体的なねらい 保育の具体的な内容 ・教育課程の具体事例研究	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p33～38 キーワード予習 学修ミニレポート③
5	保育のねらい、内容と教育課程編成の具体と手順 ・保育課程の法的基礎要件 ・保育内容と領域 ・保育課程の事例研究	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p41～57 キーワード予習 学修ミニレポート④
6	保育内容と子どもの活動 ・発達の理解と指導計画 ・環境と遊びを通して教育する意味 ・連続する学び	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p59～66 キーワード予習 学修ミニレポート⑤
7	意図的・計画的に保育・教育を行うための「計画」の必要を考える ・5つの領域 ・年間指導計画 月指導計画 集指導計画(週案) 日指導計画(日案)	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p69～75 キーワード予習 学修ミニレポート⑥
8	日案(日の計画)を作成する(1) ・日案作成の基本と諸要素 ねらい/環境構成/活動内容/予想される子どもの活動/指導・援助	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習
9	日案(日の計画)を作成する(2) ・幼児の活動 ・環境構成の具体 ・指導上の留意点 ・部分案	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	日案作成 キーワード予習
10	週案(週の計画)を作成する(1) ・週案作成の基本と諸要素 ・事例案の検討	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習
11	週案(週の計画)を作成する(2) ・週案作成の構想と具体 ・日案と週案の共通点と相違点	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	週案作成 キーワード予習
12	教育活動の「評価」を考える ・保育者による自己評価の観点 ・保育者間で行う自己評価 ・幼稚園・保育所施設の自己評価	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑦



13	子どもの育ちと幼児教育の今日的課題 ・子ども支援制度 広がる〇〇活動 ・幼児教育の研究動向	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑧
14	保育者のあり方を考える ・魅力的な研修 ・同僚性とメンター	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑨
15	幼児教育のまとめと研究の動向 ・教育改革と就学前教育に関する研究 ・世界の幼児教育	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑩
期末 試験	期末試験	記述方式テスト	

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

1. 60点満点の記述方式のテストを前期末に実施
2. 授業後の「学びの着地点」「授業テーマに関する学修ミニレポート」を30点満点で採点する。  
学修ミニレポートは、予習課題、振り返り課題、追究課題を設定。
3. 授業への参加態度(討議、発言、質問、提案など)を10点満点で採点する。

**【教科書】**

書名：教育課程・保育課程を学ぶ  
著者名：松村和子 近藤幹生 椛島香代 著  
発行所：ななみ書房  
価格：2,000円(税別)

**【参考書】**

書名：教育課程総論  
著者名：小田 豊 神長美津子  
発行所：北大路書房  
価格：1,700円(税別)

**【その他補足事項】**

1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくする。
2. 授業のはじめにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深める。
3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。

授業科目名	保育相談支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師 ふりがな こん きよたか 氏名：今 清孝		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 具体的に保護者が抱える育児に関する問題を、子どもより良い保育環境を整える視点から考える。 子どもにかかわる大人の生活（ライフサイクル）を理解し、保護者の子育てに関する問題に適切な対処をし、相談支援の記録・評価ができる力を養う。 本授業は講義のほかグループ討議、模擬相談演習、ロールプレイなどを行う。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
子どもや保護者の様子、また実際の保護者からの相談内容から、問題を見出し、支援を具体化する能力を身につける。			目標	A、B、C、H、J、K、L
問題の整理方法と支援方法、またそれらの過程を記録し評価する技術を身につける。			目標	A、B、C、J、K

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画  授業資料1・ゲーム	課題解決過程の復習
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
5	保育相談支援の技術 (1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討

6	保育相談支援の技術 (2)	授業資料 6 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考 え方の検討 1~6 のまとめ
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料 7	前回授業資料の確認 授業資料の整理
8	保育相談支援の実際 (1)	授業資料 8 DVD 視聴「保育相談支援」37 分	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情 報提供」の在り方の 検討
9	保育相談支援の実際 (2)	授業資料 9 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情 報提供」の在り方の 検討
10	保育相談支援の実際 (3)	授業資料 10 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在 り方の検討
11	保育相談支援の記録 (1)	授業資料 11 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在 り方の検討
12	保育相談支援の記録 (2)	授業資料 12 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提 供」の在り方の検討
13	保育相談支援の評価 (1)	授業資料 13 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提 供」の在り方の検討
14	保育相談支援の評価 (2)	授業資料 14 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「環境構成」の在り 方の検討 8~14 のまとめ
15	まとめ 小レポート作成		前回授業資料の確認
期末 試験	期末試験	筆記試験を実施	
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p>【到達度の評価 (評価方法・基準)】 (1) 筆記試験 70 点満点の筆記試験を学期末に実施する。 (2) レポート レポート (2 回) は 30 (各 15) 点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組 みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。 (3) その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入 し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。</p>			
<p>【教科書】書 名：演習 保育相談支援 (第 2 版) 著者名：小林育子 発行所：萌文書林 価 格：1,600 円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。 ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。 筆記試験の際には、授業配布資料のみの持ち込みを可とする。</p>			

授業科目名	乳児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師 ふりがな なかの あきこ 氏名：中野 明子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 乳児期は人間形成の基礎となる重要な時期である。これを踏まえた上で、乳児保育の専門的知識や方法を学び、さらに技術の基本を理論と実践から習得していく。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
1. 乳児保育の理念と歴史的変遷や役割等について認識が出来て、自分の言葉で説明が出来るようになる。			目標	A、C
2. 保育所・認定こども園・乳児院の保育の現状と課題について理解が出来て、自分の視点で論じることが出来るようになる。			目標	A、K
3. 3歳未満児の発育・発達を通して、生活や遊びの大切さが理解出来て、実践に備えることが出来るようになる。			目標	B、C、E、G
4. 乳児保育の計画・保育内容・環境構成や観察・記録等について理解が出来て、実践に備える事が出来るようになる。			目標	A、C
5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解が出来て、保育者として職務に着いた時に、誇りを持って出来るようになる。			目標	G、H

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 乳児保育はなぜ必要なのか ・社会的背景から考える 赤ちゃん人形を抱く	授業計画 たて抱き・横抱きの体験 第1回レポート作成	教科書 P2～5 を事前に読む
2	抱っこの仕方・おんぶの仕方 ・乳児とのふれ合いの基本を学ぶ 抱っこ・おんぶ・おむつの替え方	グループワーク：抱っこ・おんぶ・おむつ交換を学ぶ (人形使用) プリント	教科書 P114～115 P124～126 を事前に読む

3	乳児保育の成り立ちを知ろう ・歴史と現状を理解する 乳児院の社会的役割 ・乳児が暮らす福祉施設の現状	VTR 視聴 20分 「保育者への歩み」 プリント	教科書 P6～17 を事前に読む
4	認定こども園とはどんな施設 ・社会的背景と課題 乳児保育に関わる法律 ・児童福祉法、労働基準法、育児介護休業法等	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読む ワークシートを使う プリント	教科書 P18～31 を事前に読む
5	「保育所保育指針」に書いてあること ・現行指針（平成20年告示）のポイント ・平成30年告示「保育所保育指針」について 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について ・教育・保育要領の構成と内容 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の比較	保育所保育指針解説書を読む 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読む プリント	教科書 P32～39 を事前に読む
6	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント ・0、1、2歳児の発達過程をとらえる ・0、1、2歳児の保育に関わる配慮事項	保育所保育指針や保育所保育指針解説書を読む ワークシートを使う	教科書 P40～49 を事前に読む
7	人生の基礎としての乳児期 ・ポルトマンの考え方に学ぶ 乳児の噛みつき・引っかきの対応 ・トラブルの背景と保護者との連携について	グループワーク：トラブルのロールプレイングを行う プリント	教科書 P50～53 P144～145 を事前に読む
8	乳児の心の発達 ・身近な人との絆を育む過程 アタッチメントの形成 ・愛着の役割と形成について	グループ討議：アタッチメントについて プリント	教科書 P54～59 を事前に読む
9	乳児のこことばの発達 ・思いを伝え合う手段を得る過程 0歳児1歳児2歳児の喜ぶ絵本	VTR 視聴 20分 「絵本の読み聞かせ」 プリント	教科書 P60～65 P174～177 を事前に読む
10	乳児のからだ ・からだの発育と運動機能の発達	VTR 視聴 20分 「乳児保育の実際」後編 プリント	教科書 P60～65 を事前に読む
11	乳児保育における複数担任制 ・保育者同士の連携のあり方 乳児の手遊び・歌遊び ・笑顔を引き出し、絆を深めるために	DVD 視聴 20分 「楽しいうた遊び」	教科書 P78～81 P162～173 を事前に読む
12	保育所で過ごす1日の流れ ・年齢別デイリープログラム（日課表） 乳幼児の砂遊び ・砂遊びによる発達の要素	VTR 視聴 20分 「砂遊びから見る子どもの発達1」 プリント	教科書 P82～91 を事前に読む
13	手作りおもちゃの製作（1） ・人と関わる楽しさを伝えるおもちゃ作り	おもちゃの製作 ・音の鳴るおもちゃを作る プリント	教科書 P66～67 を事前に読む 乳児の発達を考慮し音の鳴る玩具を考えておく
14	手作りおもちゃの製作（2） ・完成したおもちゃの発表	おもちゃの発表をする ・わかりやすい発表の仕方 第2回レポート作成	
15	前期末試験		
16	保護者との連携を考えよう ・乳児を取り巻く協力を目ざして	DVD 視聴 30分 「ママ達が非常事態」 グループ討議：虐待の発見と対応について プリント	教科書 P92～100 を事前に読む

17	<p>発達の遅れと向き合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を支える</li> </ul> <p>連絡帳の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちを保護者とわかち合う</li> </ul>	<p>DVD 視聴 20分</p> <p>「育ち育てる子育ての時間」</p> <p>連絡帳を書く (ワークシート使用)</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P104～111 P156～159</p> <p>を事前に読む</p>
18	<p>乳児の衣服の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の特徴と扱い方を知る</li> </ul> <p>衣服の着せ方・脱がせ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えの配慮のポイントを学ぶ</li> </ul>	<p>グループワーク：着せ方・脱がせ方を学ぶ(人形使用)</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P118～123</p> <p>を事前に読む</p>
19	<p>乳児のトイレトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングのポイント</li> </ul> <p>乳児の睡眠について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「寝る子は育つ」とは</li> </ul>	<p>グループ討議：トイレの誘い方について</p> <p>絵本「パンツのはきかた」</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P127 P76～77</p> <p>を事前に読む</p>
20	<p>授乳の仕方とその準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工乳・冷凍母乳の扱い方を学ぶ</li> </ul> <p>食物アレルギーの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の特徴と対応のポイント</li> </ul>	<p>DVD 視聴 20分</p> <p>「聞いてみよう！食物アレルギーのこと」</p> <p>グループワーク：調乳をする</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P128～131 P136～137</p> <p>を事前に読む</p>
21	<p>離乳食の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳にむけた食事の進め方を知る</li> <li>・離乳食の献立作成</li> </ul>	<p>グループワーク：献立作成</p> <p>第3回レポート作成</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P132～137</p> <p>を事前に読む</p>
22	<p>沐浴の仕方・清拭の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児のからだを清潔に保つために</li> </ul>	<p>DVD 視聴 20分</p> <p>「やさしい沐浴法」</p> <p>グループワーク：沐浴をする(人形使用)</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P138～141</p> <p>を事前に読む</p>
23	<p>保育環境の衛生管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の生活を清潔に保つために</li> </ul> <p>乳児保育における安全管理(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期特有の病気と薬の扱い方を学ぶ</li> </ul>	<p>VTR 視聴 20分</p> <p>「保育の安全と事故防止」</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P142～143 P146～149</p> <p>を事前に読む</p>
24	<p>乳児保育における安全管理(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児を事件・事故から守る方法を知る</li> </ul>	<p>グループ討議：日常の危険と回避の仕方について</p> <p>第4回レポート作成</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P150～155</p> <p>を事前に読む</p> <p>実習先での日常の危険についてまとめておく</p>
25	<p>宗教について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との信頼関係のために</li> </ul> <p>諸外国の出産の現状と子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジア(アンコールワット)等の出産現状</li> </ul>	<p>DVD 視聴 30分</p> <p>「小さな命の詩」</p>	<p>教科書 P102～103</p> <p>を事前に読む</p>
26	<p>乳児保育指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の見方</li> <li>・指導案の部分作成</li> </ul> <p>わらべうた遊び</p>	<p>グループ討議：4月指導案の部分作成</p> <p>プリント</p>	<p>教科書 P82～91</p> <p>を事前に読む</p>
27	<p>福島の子どもの外遊び・砂遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災と原発事故</li> <li>・外遊び・砂遊びと乳児の発達</li> </ul> <p>乳幼児の外遊び・砂遊びの取り組みや配慮について</p>	<p>DVD 視聴 20分</p> <p>「砂遊びから見る子どもの発達2」</p> <p>グループ討議：外遊び・砂遊びの取り組みについて</p> <p>第5回レポート作成</p>	<p>実習先での外遊び、砂遊びの取り組みについてまとめておく</p>
28	<p>絵本の読み聞かせ(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な絵本作り(終らない絵本)</li> </ul>	<p>グループワーク：読んであげたい絵本を決める</p> <p>プリント</p>	<p>乳児に読んであげたい絵本を持参する</p>
29	<p>絵本の読み聞かせ(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの発表をする</li> </ul>	<p>グループワーク：グループ毎に読み聞かせをする</p>	

30	まとめ ・保育者の役割と専門性	DVD 視聴 20分 「地域の顔が見える子育て支援」	保育者の役割と専門性について考えておく
期末試験	後期末試験		

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）】**

1. 筆記試験（前期末試験・後期末試験） 60%
2. レポート・製作物提出 30%
3. 授業態度等 10%

※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により加点と減点を行う。

※詳細については、第1回目の授業で説明する。

**【教科書】** 1. 書名： はじめて学ぶ乳児保育

著者名： 志村聡子

発行所：株式会社 同文書院

価格：2,000円（税別）

2. 書名：平成30年告示保育所保育指針

発行所：フレーベル館

価格：120円（税別）

3. 書名：平成30年告示幼稚園教育要領

発行所：フレーベル館

価格：100円（税別）

4. 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領

発行所：フレーベル館

価格：150円（別税）

5. 書名：平成30年告示保育所保育指針解説書

発行所：フレーベル館

価格：未定（秋頃出版予定）

6. 書名：平成30年告示幼稚園教育要領解説書

発行所：フレーベル館

価格：未定（秋頃出版予定）

7. 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

発行所：フレーベル館

価格：未定（秋頃出版予定）

※2～7の教科書は、他の授業科目でも使用する。それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。なお、平成30年告示版は平成30年4月より施行となる。

※1年次に購入したものは、平成20年告示版である。平成20年告示版についても、それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。

**【その他補足事項】**

1. 教科書の予習・復習をすること。
2. 絵本に関心を持ち、ひとり1冊、乳児にふさわしい絵本を用意しておく。
3. 授業配付資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルして試験に臨むこと。

授業科目名	教育方法・技術		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師 <small>ふりがな さ く ま まさひろ</small> 氏名：佐久間 正弘		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	必修	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 本科目では、幼児教育の現場で行われる教育の方法と技術について実践的かつ総合的に学習する。はじめに教育方法の歴史的変遷を概観し、先人の教育方法についての思想を考察した後、幼稚園教育要領（保育所保育指針）、幼保連携型認定こども園に基づく教育課程編成と授業設計・指導、教材教具と情報機器・ICTの活用、評価方法等の基本的技術を修得していく。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
教育方法の意義と守備範囲について理解し説明できる。	目標	A、C
教育方法の歴史的変遷について理解した上で、これまでの方法を批判的に読み解くことができる。	目標	C、J
今日の幼児教育の方法と技術の基本を理解し、活用できる。	目標	B、K
情報化社会の光と影を理解した上で、幼児教育における教育メディアとICTを適切かつ効果的に活用できる。	目標	A、C、I

<b>【授業計画】</b>			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標、評価方法 (2) 教育方法の意義と範囲	講義 授業計画 配付資料	シラバスを読んでおく
2	今日の幼児教育 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と基本	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
3	教育方法の歴史的展開 (1) 西欧の教育方法	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
4	教育方法の歴史的展開 (2) 近・現代の教育方法	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
5	教育方法の歴史的展開 (3) 日本の教育方法	講義とグループ討議 配付資料 レポート課題提示	配付資料を事前に読んでおく



6	教育方法と技術の改革（1） 学習心理学と教授理論	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート作成
7	教育方法と技術の改革（2） 教材・教具の活用	講義 教材・教具活用の演習 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート作成
8	情報機器・ICTの活用 情報化の光と影 教育への活用	講義 ICT活用の演習 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート提出
9	幼児期の発達課題を踏まえた教育課程 教育課程の原理と編成	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
10	幼稚園教育要領（保育所保育指針）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	講義とグループ討議 配付資料 幼稚園教育要領	配付資料を事前に読んでおく
11	教育評価の理論と方法 相対評価と絶対評価 評価の活用	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
12	授業の設計と模擬実践（1）	指導計画の作成 模擬授業	指導案の作成
13	授業の設計と模擬実践（2）	指導計画の作成 模擬授業	模擬授業の自己評価をまとめる
14	幼児教育における留意事項 安全に関すること、障害のある幼児の指導、小学校教育との連携	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
15	まとめ 教育方法の課題と今後の展望	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
期末試験	期末試験		
<p><b>【期末試験の講評】</b> 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b> （1）小テスト 第2回授業から第11回授業まで小テストを行う。（各2点×10回）20点満点 （2）レポート 授業中に課題を提示する。30点満点 （3）期末試験 40点満点 （4）授業参加態度及び模擬授業 10点満点</p>			
<p><b>【教科書】</b> 使用せず資料を配付。</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：教育の方法と技術 著者名：平沢 茂 編著 発行所：図書文化 価格：2,000円(税別)</p>			

授業科目名	幼児理解		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	非常勤講師 ふりがな きとう きくこ 氏名：佐藤 菊子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	必修	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児一人ひとりを理解すると言うことの意味と、その発達の特長や課題に応じた教育を行うために必要な基礎理論について理解し、幼児にどうかかわり援助していくかについて考える。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		

【授業の到達目標】 保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領の再確認とともに、視聴覚教材等による事例等から、理論を踏まえた上で一人ひとりの特性を見とりかかわることの重要性を理解し、幼児の言動の意味することの理解と把握、援助の仕方について考察できるようにする。	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
	目標	C, I, J, K

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ 授業の趣旨と進め方	授業計画 授業内容に関するプリント 授業の目標・方法	自分の考えのまとめ
2	子どもを理解するということ1 ・ 保育所保育指針解説や幼稚園教育要領解説 ・ DVD、絵本、文献等	授業内容に関するプリント それぞれに見る幼児の姿から 感じたことの話し合い	自分自身の幼児時代を振り返ってのまとめ
3	子どもを理解するということ2 ・ 幼児理解の基盤	授業内容に関するプリント ・ 指針や要領から ・ 幼児の姿から	指針と要領の読み込み
4	子どもの発達の特長と発達過程	授業内容に関するプリント ・ 発達に関する理解	指針と要領の読み込み

5	幼児観察を通じた理解 1	授業内容に関するプリント 視聴覚教材視聴から話し合い	幼児理解の視点のまとめ
6	幼児観察を通じた理解 2	授業内容に関するプリント 視聴覚教材視聴から話し合い	幼児理解の方法のまとめ
7	幼児の活動場面記録から 1	授業内容に関するプリント 幼稚園等での事例から、話し合 い	幼児の言動をどう理解し かかわるか
8	幼児の活動場面から記録 2	授業内容に関するプリント 幼稚園等での事例から、話し合 い	幼児理解の違いによるか かわりの違い
9	絵本や文学作品に見る子どもの世界	授業内容に関するプリント 絵本等の子どもの内面の理解	自分の考えをもった考察
10	幼児の見取りを生かすかかわり方	授業内容に関するプリント 視聴覚教材視聴から話し合い	見取りが援助にどう生か されるかのまとめ
11	幼児の見取りを生かすかかわり方	授業内容に関するプリント 場面想定による話し合い	実習等の記録の見直し
12	絵本や文学作品に見る子どもの世界	授業内容に関するプリント 絵本等の子どもの内面の理解	自分の考えをもった考察
13	「幼児理解」についてのまとめ ・発表資料作り	授業内容に関するプリント ・「私の学んだ幼児理解」資料 作成	幼児理解についての自分 の考えのまとめ
14	「幼児理解」についてのまとめ ・発表	授業内容に関するプリント ・「私の学んだ幼児理解」の 発表	幼児理解についての自分 の考えの発表
15	「幼児理解」についてのまとめ	「幼児理解」についての自分の 考えの変容についての話し合 い	幼児理解についての深ま りのまとめ
期末 試験	期末試験		
<p><b>【期末試験の講評】</b>          期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。</p>			
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b>          レポートの作成・提出（30%）、及び演習評価（20%）は、各授業内容の理解及び自己の見解の明確さについて評価する。さらに、期末試験（50%）は、授業内容の理解度等について評価し、各結果を合計する。</p>			
<p><b>【教科書】</b> 書 名：幼児理解と評価 平成 22 年 7 月改訂          著者名：文部科学省          発行所：ぎょうせい          価 格：190 円(税別)</p> <p>書 名：指導と評価に生かす記録 平成 25 年 7 月          著者名：文部科学省          発行所：チャルドネ社          価 格：200 円(税別)</p>			

授業科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任教授 ふりがな わたなべ ひろし 氏名：渡辺 博志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
			開講キャンパス	宮代キャンパス
を卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	必修	
保育士		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		フィスアワーについては初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 保育者として求められる専門性、実践力について、演習やテーマ研究等による授業を通して、今後の保育実践に向けての自己課題を明らかにするとともに、保育活動に必要とされる専門的知識・方法や実践的知識・技能を補い、その定着を図ることをねらいとする。 具体的には、映像資料の視聴、実践記録の分析、グループ討議、ロールプレイング、子ども理解事例研究などの方法を通して保育で大切にしたい専門的知識・技能を再確認しながら、実践的指導力の学びを深めることができるようにする。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
保育に関する学修履歴を踏まえて自分の学びを振り返り自己課題を明らかにするとともに、保育者としてさらに大事にしたい知識技能の習得について履修カルテを作成することができるようになる。	目標	A・D
問題解決のための対応、判断方法等について学びを深めることができるようになる。	目標	A・B
保育に関する今日的課題について現状分析、考察を自分の視点から論ずることができるようになる。	目標	J・K

### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1)授業の概要と目標 (2)授業内容と評価方法 (3)その他(本科目の留意点) 2. これまでの保育に関する学修や教育実習を振り返り話し合う ・実習でもっと大事にしたかったこと、むずかしかったこと、苦労したこと ・さらに深く学びたいこと	授業計画 学修や実習について省察し、確かめたいことやさらに深く学びたいことについてグループで話し合う	・これまでの学修履歴や実習から自己課題を整理する ・
2	〈保育者の専門性の発達と「実践演習」1〉 ・「子ども理解」と保育 ・「子ども理解」のための方法とツール 記録、子どもの「表現」、デジタルツールの活用、言葉かけの実践事例研究	子ども理解の方法や事例について話し合う ・実習で出会った〇〇さん ・ベテラン教師に学ぶ方法 ・私が実践したい「子ども理解」	履修ミニレポート1 左記3つの視点から自分の「子ども理解」を整理して記述する

3	〈保育者の専門性の発達と「実践演習」2〉 ・ロールプレイングの基礎 ・「ふるまう」ことから学ぶ — ほめる・言葉かけ —	グループで場面事例をもとに「ほめる活動」のロールプレイングをする	履修ミニレポート2 効果的であった「ほめる」活動事例を整理して記述する
4	〈保育者の専門性の発達と「実践演習」3〉 ・保育者の「寄り添い」 — 教育的愛情 — ・保育者の対人能力 子ども、職員同士、保護者とのかかわり	自分が考える「教育的愛情」「よりよい対人関係」についてグループ討議をする	履修ミニレポート3 左記2つの視点から自分の考えを整理して記述する
5	〈ここまでの演習で深く考えたこと、学んだこと〉 ・学びの振り返りとまとめ	自分の振り返りとして自己課題に関する学びの展望を話し合う	履歴ミニレポート4：小まとめを作成する
6	〈保育における保育実践力 1〉 ・計画と実践の間にある「ズレ」から学ぶ ・子どもの自発性・能動性を引き出す物的・人的環境	自発性・能動性を引き出す環境づくり、内発的動機付けなどについて事例研究をする	履修ミニレポート5 左記の事例について授業案集などから事例を集め考察をする
7	〈保育における保育実践力 2〉 ・子どもの「遊び」の総合性……5領域にまたがる主体的な活動 ・「遊び」の楽しさを伝える保育活動	実践指導者からの指導を受け、遊びのレパートリー、取り入れ方についてグループで協議する	履修ミニレポート6 「遊び」事例集の作成
8	〈保育における保育実践力 3〉 ・保育者の指導・援助 ・言葉かけ 見守る スキンシップの具体的方法	言葉かけ 見守る スキンシップの具体事例についてグループで討議する	履修ミニレポート8 左記の具体事例をまとめて考察する
9	〈自己課題と専門性の向上 1〉 ・自己課題を克服することの意義 ・保育者・私にとっての自己課題 ・自己課題克服に向けてのP D C Aサイクル	現在の「私・シート」をもとに自己課題を整理するとともにクラスメートからのコメントから「気づき」をまとめる	履修ミニレポート9 「私・シート」をまとめる
10	〈自己課題と専門性の向上 2〉 ・自分のよさを知る ・自分の「強み」を発見し、課題を補う ストレngths視点 エンパワーメント	クラスメートから視点「自分の強みとそれを生かした展望をまとめる	履修ミニレポート10 「私・シート」に「これからの展望」をまとめる
11	〈自己課題と専門性の向上 3〉 ・「実技」を生かした保育の充実 ・事例研究「絵本」の可能性と読み聞かせ 「手遊び」「手作り工作」など	経験者からの指導を受け、「実技」についてのまとめと活用の展望を図る	得意な実技のプレゼンテーション計画を立てる
12	〈保育・教育の改善と目指す保育者像 1〉 ・新しい幼稚園教育要領が目指す保育① ・指導の評価と計画の再構成 ・保育の質を高める事例研究	「育の質を高める」をテーマにグループ討議をする	履修ミニレポート11 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
13	〈保育・教育の改善と目指す保育者像 2〉 ・新しい幼稚園教育要領が目指す保育② ・子どもの姿の見とりと援助、保護者支援 ・組織としての関わり方と関係機関との連携	子どもの見とり、援助の在り方など保育・教育の改善についてグループで話し合う	履修ミニレポート12 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する

14	〈保育・教育の改善と目指す保育者像 3〉 ・目指したい保育者像 ・保育課題の検討	目指したい保育者像について整理しグループで話し合う	履修ミニレポート13 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
15	この授業を通して学んだこと ・「履修ミニレポート整理」と考察 ・保育者としての展望発表	授業を通して学んだことを発表し合う	履修ミニレポートの整理と考察をする
期末試験	「履修カルテ」作成（まとめ）		

**【期末試験の講評】**

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

**【到達度の評価（評価方法・基準）**

- 40点満点の記述方式による「履修カルテ」作成を学期末に実施(テスト時間内に記述作成)
- 「履修ミニレポート」を40点満点で採点する。  
「履修ミニレポート」は、履修カルテ作成のポートフォリオ資料となる。
- 授業への参加態度(「学びの着地点」記述内容、討議、発言、質問、提案など)を20点満点で採点する。

**【教科書】** 使用しない（授業内容に関する資料は、その都度、配付する）

なお、以下の3冊は、準教科書として1年次から使用しているものを使用する。

- ①書 名：幼稚園教育要領  
著者名：文部科学省  
発行所：フレーベル館  
価 格：100円(税別)
- ②書 名：保育所保育指針  
著者名：厚生労働省  
発行所：フレーベル館  
価 格：120円(税別)
- ③書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領  
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省  
発行所：フレーベル館  
価 格：150円(税別)

**【参考書】** 書 名：保育・教職実践演習

著者名：小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著  
発行所：建帛社  
価 格：1,800円(税別)

書 名：保育・教職実践演習—自己課題の発見・解決に向けて  
著者名：生野金三 井口眞美 田中正浩 田中 正浩  
発行所：萌文書林  
価 格：2,000円(税別)

**【その他補足事項】**

- 授業で配付する資料、実施した演習内容、授業キーワードについて復習すること。
- 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。

授業科目名	教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	3年次 (ダブルメジャー4年次)
担当教員	兼担講師 ながしま てるこ 長島 輝子	兼担講師 せきもと ひとし 関本 仁	開講期	通年
			授業回数	時間割外
	期末試験の有無	無		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 教育実習は「基本実習（1週間）」「幼稚園実習（3週間）」およびその事前・事後指導からなる、長期にわたる学習である。すでに1～2年次において「基本実習」と事前指導の一部が実施されている。 3年次では「協力幼稚園実習」とそのためのオリエンテーションや事前指導、すべての実習が終了した後に「実習反省会」などの事後指導を実施する。 ※教育実習（5単位）の内訳は、本学幼保連携型認定こども園「基本実習」（1単位）、「幼稚園実習」（3単位）、「教育実習事前・事後指導」（1単位）である。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
幼稚園教諭としての基礎的な幼児理解や専門技術を修得する。		目標	A・B・J
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。		目標	D・J・K

#### 【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要、内容、評価方法について 教育実習① ・教育実習の意義・目的 ・幼稚園教諭免許状について ・実習園の概要	講義  授業計画 実習日誌 プリント（毎回配付）	復習：渡された資料を熟読
2	教育実習② ・実習生としての心得 ・訪問指導用カード、誓約書、準備物他	講義 プリント 資料配布	復習：渡された資料を熟読 カード等作成他
3	教育実習③ ・オリエンテーションの受け方 ・実習の内容と方法 ・子ども理解について	講義 質疑応答 プリント	復習：渡された資料を熟読
4	教育実習④ ・実習日誌について (記録の目的・記録の種類と方法・子どもの園生活)	講義 質疑応答 プリント	復習：渡された資料を熟読

5	<b>教育実習⑤</b> ・指導案とは何か ・指導計画の立て方 (立案の過程・部分実習・半日実習・全日実習) ・教材研究 ◇手遊び、歌遊び、パネルシアター、絵本、手作り人形他 ◇ゲームや鬼ごっこ、踊りや体操、製作遊び他	講義 プリント 演習	予習：部分案作成 実習に向け計画を立てる。 実習の準備をする
<b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b> ・実習事前・事後指導時の受講態度、報告書の内容、実習先からの評価点による。 ※詳細については、第1回授業時に説明する。			
<b>【教科書】</b> 福島学院大学認定こども園基本実習の手引き（2年次配付済） ※その他必要に応じ毎回プリントを配付する。			
<b>【実習および事前事後指導日程】</b> (1) 「基本実習」事前指導 1年次 1月～2月（7コマ） 2年次 4月（2コマ） 「基本実習」2年次……4月～5月（1週間）終了 ○基本実習の概要 ○基本実習の意義 ○レポート作成 ○技術演習指導案 ○技術演習 ○環境構成・整備 ○実習日誌 ○全体・個別観察 ○指導案作成 ○こども園について  (2) 教育実習事前指導： 2年次……4月オリエンテーション（2コマ） 6月～7月、9月（5コマ） 3年次……4月オリエンテーション（1コマ）  (3) 教育実習：保育科第二部…第1班 平成29年5月15日（月）～6月2日（金） 第2班 平成29年6月12日（月）～6月30日（金） （2班編成で実施予定） 教育実習ダブルメジャー ……平成29年9月15日（金）～10月6日（金）  (4) 実習事前指導および事後指導【実習反省会】 1年次…平成28年1月17日（日）※実施済 2年次…平成29年1月14日（土）※実施済 3年次…平成30年1月13日（土）予定  <b>【実習費】</b> 1. 実習費（実習先への委託費）を実費徴収する。 (1) 基本実習委託費 3,000円（2年次） (2) 教育実習委託費 11,000円（3年次）  <b>【その他補足事項】</b> 1. 教育実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 教育実習を行うにあたり、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参すること。 3. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 4. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合がある。			



授業科目名	保育実習Ⅱ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	なかの あきこ 兼担講師 中野 明子		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 「保育実習（保育所実習）」の積み上げとして、保育所における実習を部分実習、指導実習を主に行い、保育内容の技術的習得、保育計画・指導計画等の理解と立案を実践する。保育士としての態度と技術の習熟、乳幼児の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
<b>【授業の到達目標】</b>	<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)		
実習を通して保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。	目標	A、B、H	
子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	目標	A、B	
既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。	目標	A、B、H、K	
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。	目標	A、B、D、K	
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	A、B	
実習を通して保育士としての自己の課題を明確化する。	目標	A、B	
<b>【実習期間】</b> 保育科第二部：9月中旬～下旬（概ね10日間）			
<b>【評価方法】</b> 実習先からの評価点による。			
<b>【実習費】</b> 1. 保育実習Ⅱ委託費 8,000円 2. 腸内感染症検査料 2,500円程度			
<b>【その他】</b> 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅱ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーのある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。			

授業科目名	保育実習Ⅲ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	教授	こうべ のぶゆき 神戸 信行	開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭 二種免許状		〃	選択	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして、児童家庭福祉施設における実習を部分実習、指導実習を主に行い、保育内容の技術の習熟、援助活動等の理解と立案を实践する。 保育士としての態度と技術の習熟、要援護者の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>			<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。			目標	A、B、H
2. 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。			目標	A、B、H、K
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			目標	A、B、H、K
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。			目標	A、B、D、H、K
<b>【実習期間】</b> 保育科第二部：10月上旬～中旬。（概ね10日間）				
<b>【評価方法】</b> 実習先からの評価点による。				
<b>【実習費】</b> 1. 保育実習Ⅲ委託費 8,000円 2. 腸内感染症検査料 2,500円程度				
<b>【その他】</b> 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風しんの抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。				

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	なかの あきこ 兼担講師 中野 明子		開講期	通年
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

<b>【授業の概要】</b> 乳幼児の発達に応じたかかわり方についてのさらなる理解を深める。さまざまな演習を通して実習に対しての実践力を高め、保育士の役割や専門性を再確認するとともに、グループワークや指導計画の検討等を通して、保育士になるためにそれぞれが取り組まなくてはならない課題を認識し、より良い支援のあり方について理解を深めていく。	<b>【授業の概要との対応項目】</b>		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【授業の概要・到達目標との対応項目】</b> (受講して得られる力)	
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。		目標	A、B、D、K、L
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。		目標	A、B、D、K、L
保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。		目標	A、B、D
保育士の専門性と職業倫理について理解する。		目標	A、B
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		目標	K

**【授業計画】**

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	<b>オリエンテーション</b> (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) <b>保育実習Ⅱにおける総合的な学びとは何か、考察を深める。</b> (1) 子どもの最善の利益を生かした保育について (2) 保育所の生活の流れや展開について確認する	授業計画 保育実習の手引き	教科書の熟読 実習の準備、確認 子どもに関する報道や情報に関心をもち、考察する
2	<b>事例研究</b> 保育の観察、記録、自己評価を次へ生かすための考察	配付資料 実習反省会要項 グループワーク	教科書の熟読 実習の準備、確認

3	<b>保育方法について (1)</b> 子どもへの具体的ななかかわりについて理解を深める	配付資料	教科書の熟読 実習の準備、確認
4	<b>保育方法について (2)</b> 保育の導入、展開の仕方について理解を深める	グループワーク	実習で行う活動内容を考えておく
5	<b>指導計画について (1)</b> 指導計画と実践についての理解	配付資料	指導計画の完成
6	<b>指導計画について (2)</b> 作成した保育計画に基づく保育実践と評価	グループワーク	指導計画についての考察を深める
7	<b>保育実習Ⅱへむけて (1)</b> 子どもの保育と保護者支援 保育士の専門性と職業倫理の理解	保育実習の手引き 実習反省会要項 配付済資料の確認 グループワーク	実習の準備、確認
8	<b>保育実習Ⅱへむけて (2)</b> 保育所実習の実際、実習生に望むこと	保育実習の手引き DVD 視聴 「保育所実習特別講義」	保育実習Ⅱ終了後 「実習報告書」の提出
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。</p> <p>2. 「保育実習Ⅱ」終了後、実習報告書を提出する。</p> <p>3. 上記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従って GPA には反映しない。</p>			
<p><b>【教科書】</b></p> <p>1. 書名：保育実習の手引き 発行所：福島県保育者養成校連絡会 編（2年次に購入済み）</p> <p>2. 書名：保育所保育指針解説書〈平成20年告示〉（1年次に購入済み）</p> <p>3. 書名：「平成28年度実習反省会要項」（2年次に配付済み）</p>			

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3年次
担当教員	教授	こうべのぶゆき 神戸 信行	開講期	通年
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
			開講キャンパス	宮代キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭		〃	選択	
保育士		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導Ⅲは、「保育実習(児童福祉施設実習)」の積み上げとして実施される「保育実習Ⅲ」に向けた事前・事後指導で構成される。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
児童福祉施設の役割と機能を理解し、既習の実習や教科内容との関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を培う。			目標	A、B、D、K、L
利用者への態度と心構えを理解し、個人差や生活環境に伴うニーズを理解する。			目標	A、B、K、L
実習日誌、個別支援計画の作成および自己評価の仕方等を学ぶ。			目標	A、B、D
保育士の専門性および多職種連携と職業倫理について理解する。			目標	A、B
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			目標	K

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 実習目標の確認	授業計画  教科書・プリント	教科書、資料熟読 提出物記入
2	記録の意義と自己評価のポイント	教科書・プリント グループディスカッション	教科書、資料熟読 事前リサーチ 提出物の記入
3	実習の実際① 養護の基本原則と援助技術	教科書・プリント	教科書、資料熟読

4	施設の特質と機能 養護の実際 実習での留意点	教科書・プリント	教科書、資料熟読
5	実習の実際② 日常生活支援と指導計画の実際	教科書・プリント	教科書、資料熟読
6	実習の実際③ 保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	教科書・プリント	教科書、資料熟読
7	実習における留意点の確認 実習準備確認	教科書・プリント	教科書、資料熟読
8	保育実習Ⅲ事後指導 実習報告 礼状・報告書	教科書・プリント	実習報告書等の再 点検・整理 報告書提出
<p><b>【到達度の評価（評価方法・基準）】</b></p> <p>1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。</p> <p>2. 「保育実習Ⅲ」終了後、実習報告書を提出する。</p> <p>3. 上記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。</p>			
<p><b>【教科書】</b></p> <p>1. 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会 編</p> <p>2. 書名：「福島県保育実習施設」 発行所：福島県保育者養成校連絡会 編</p> <p>※教科書は1年次に配布済み</p>			
<p><b>【参考書】</b> 書名：障害のある子の支援計画作成事例集</p> <p>著者名：日本相談支援専門協会 編集</p> <p>発行所：中央法規</p> <p>価格：2,600円(税別)</p>			